

サクラマス・本流ヤマメ・戻りヤマメの釣獲状況 2013年から2023年のまとめ

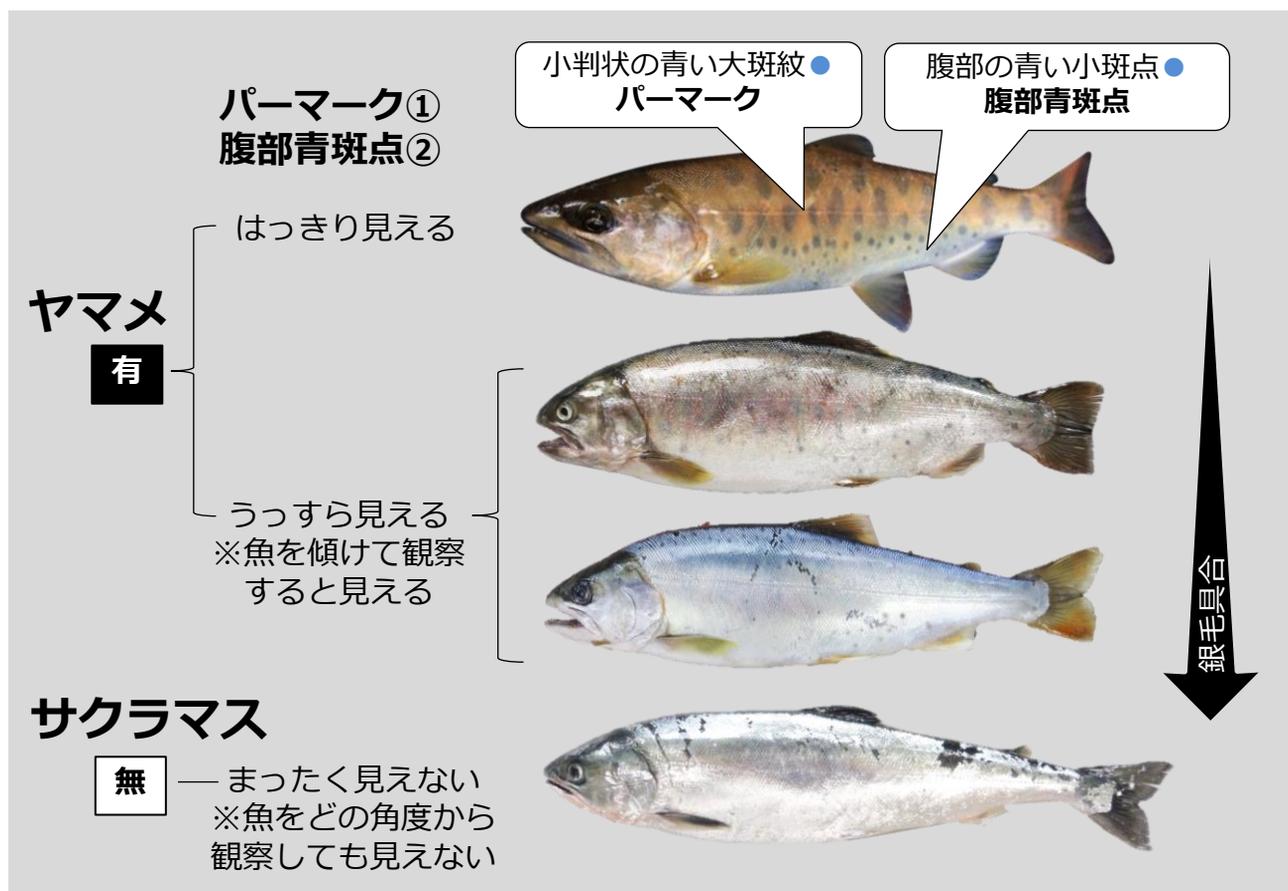
栃木県水産試験場

水産試験場では、県内のサクラマス・本流ヤマメ・戻りヤマメの釣獲状況を明らかにするため、2013年から釣り人の皆さんに釣果情報を投稿いただいています。

調査の開始から10年が経過したことを踏まえ、これまでに皆様から投稿いただいた情報と明らかになったことを取りまとめました。

那珂川でのサクラマスとヤマメの見分け方

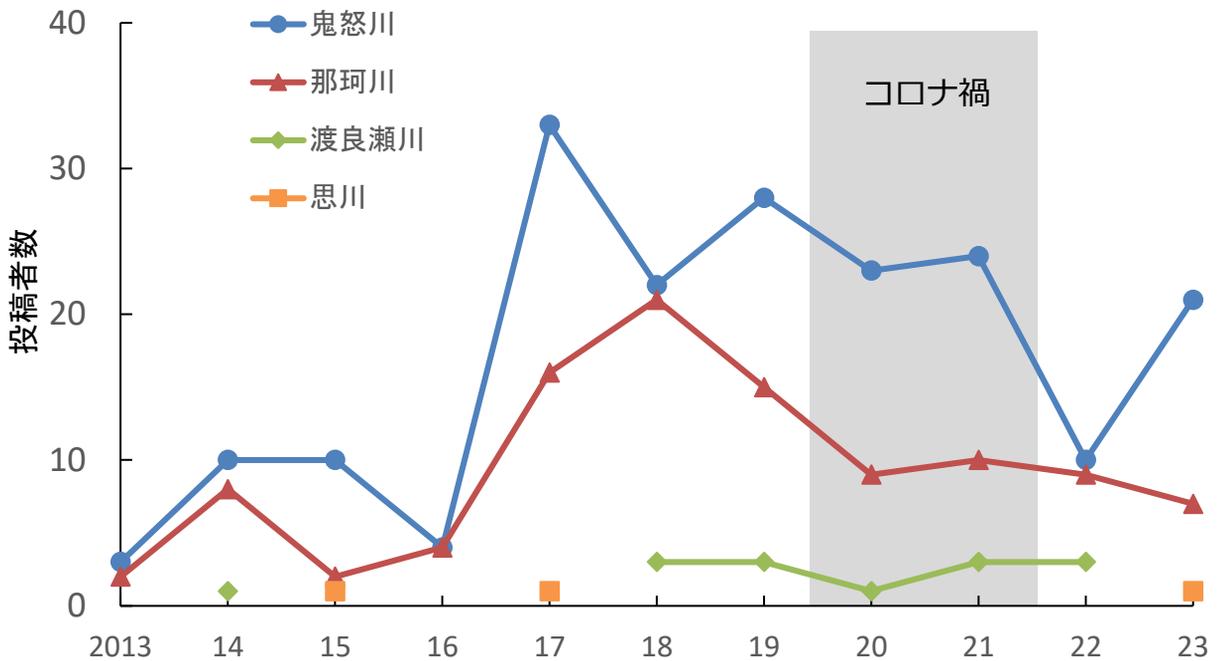
2013年から2016年にかけて投稿者に提供いただいたサンプル（一部は水試や漁協で採捕）を解析した結果、サクラマス（降海型）とヤマメ（河川残留型）を見分けられることが明らかになりました。



※これまでの調査で那珂川以外の県内の河川ではサクラマス（降海型）は確認されていません。

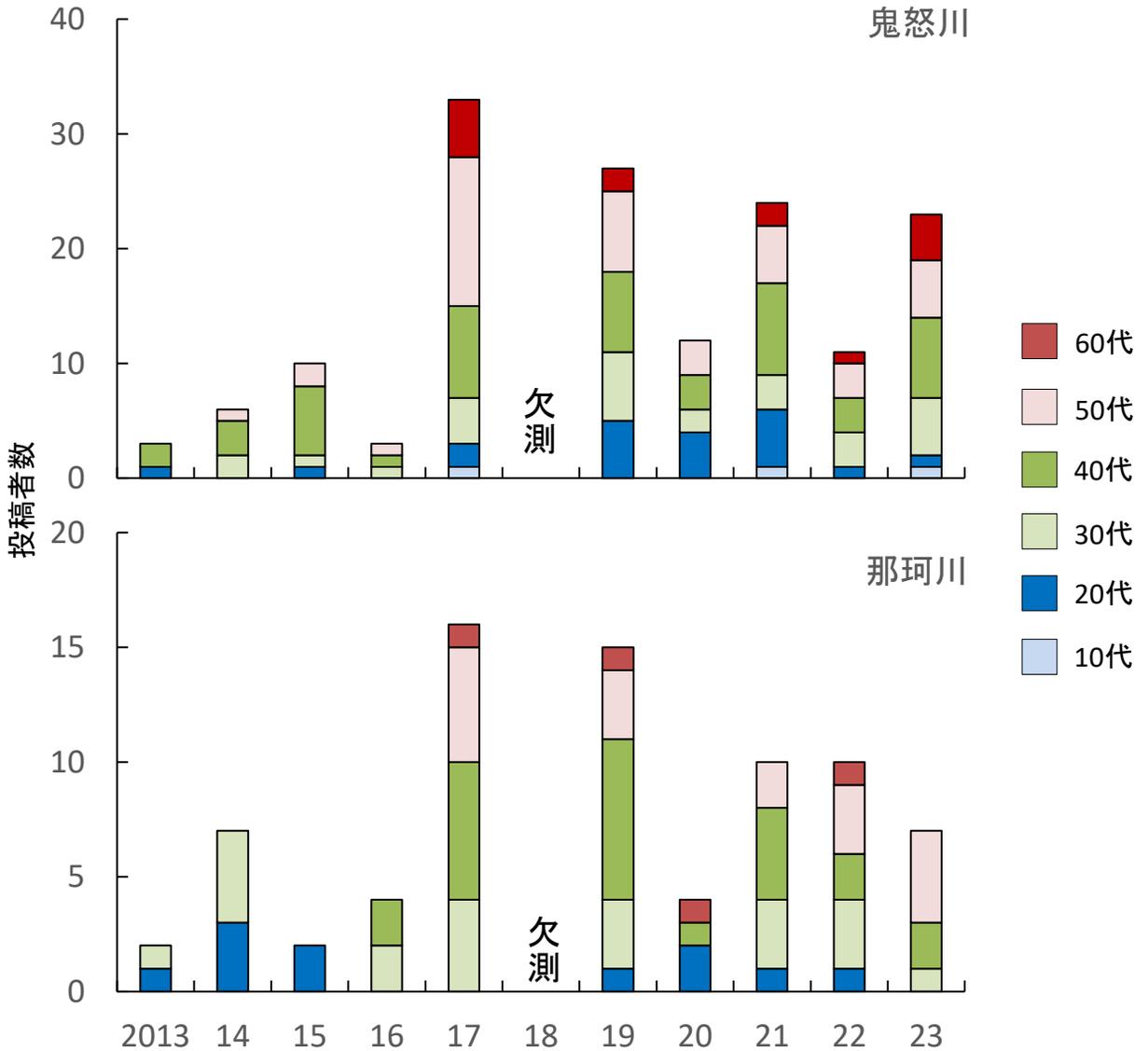
参考： https://www.pref.tochigi.lg.jp/g65/documents/28_h29_sakuramasu_ziseki.pdf

投稿者数の推移



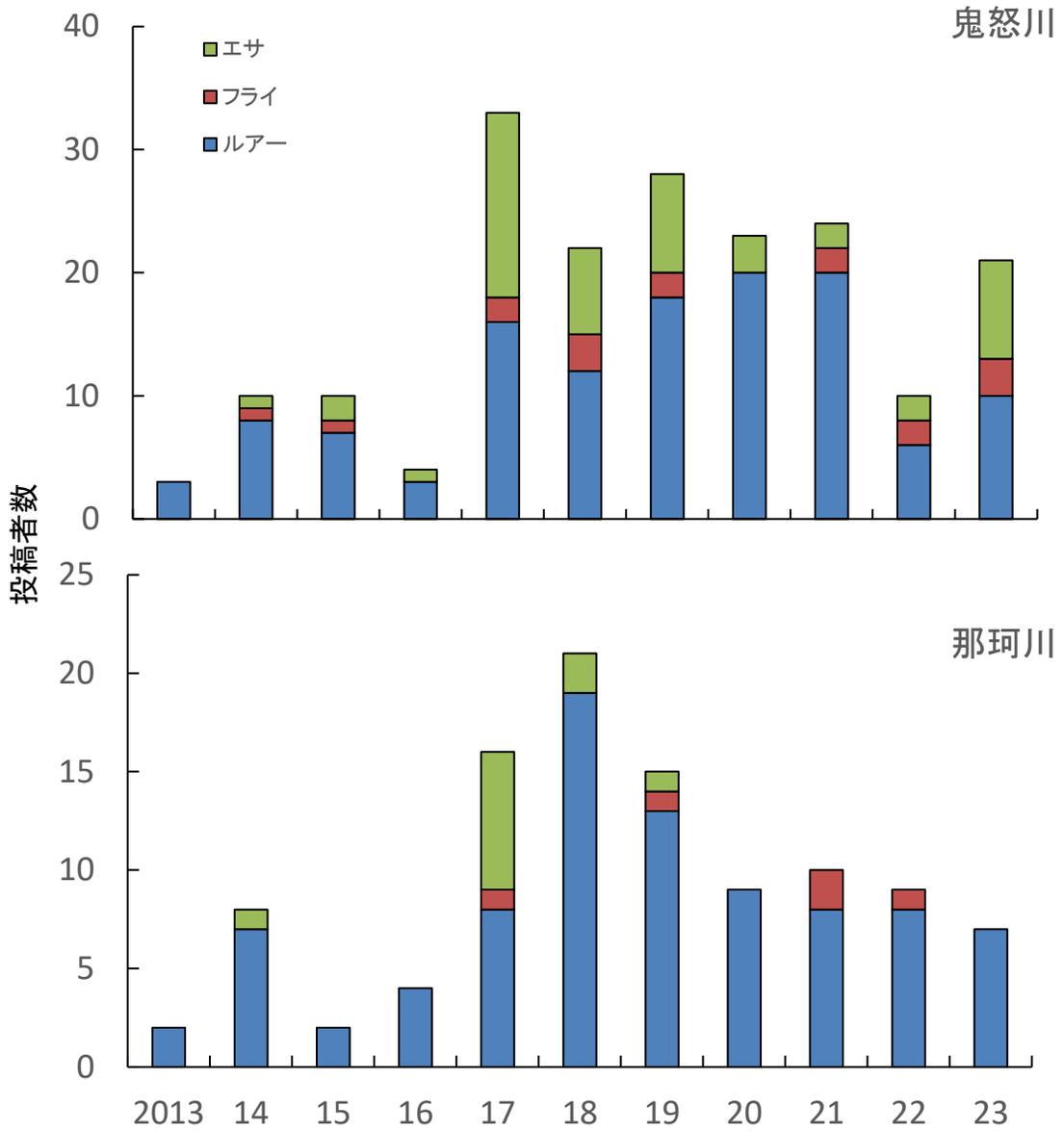
- 鬼怒川、那珂川の投稿者が比較的多かった。
 - コロナ禍による投稿者数の減少は見られなかった。
- ※ 渡良瀬川、思川は投稿者が少なかったため、これ以降は鬼怒川、那珂川について取りまとめることとした。

投稿者の年代構成



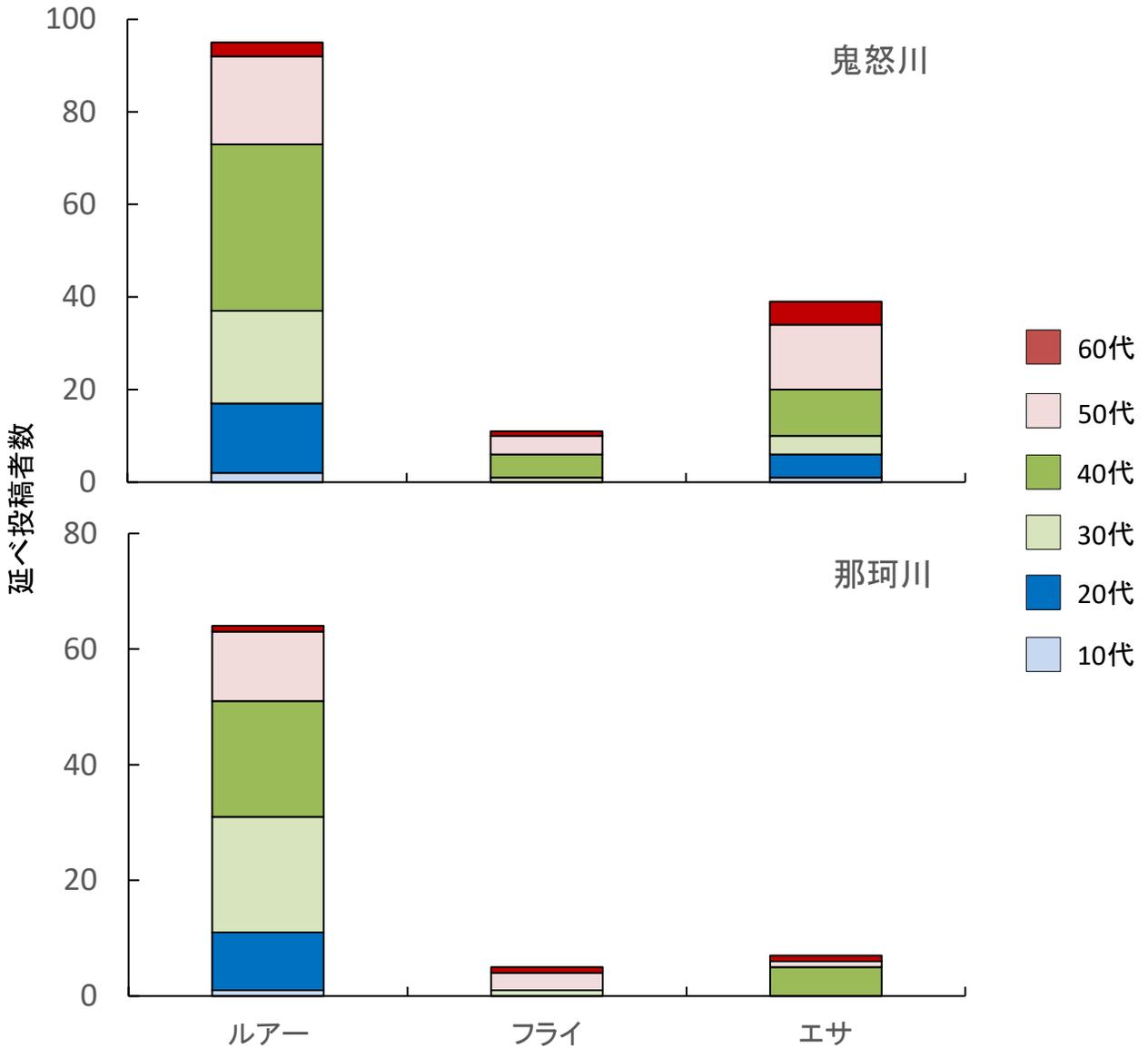
- 両河川ともに2017年から投稿者が増加し、特に50代以上の投稿者が増えた。
- 釣果情報の認知度が高くなったことにより、投稿者数が増加したと考えられる。

投稿者の釣り方の構成



- 両河川ともルアーの投稿者が多かった。
- フライやエサ釣りの投稿者は、鬼怒川で比較的多かった。

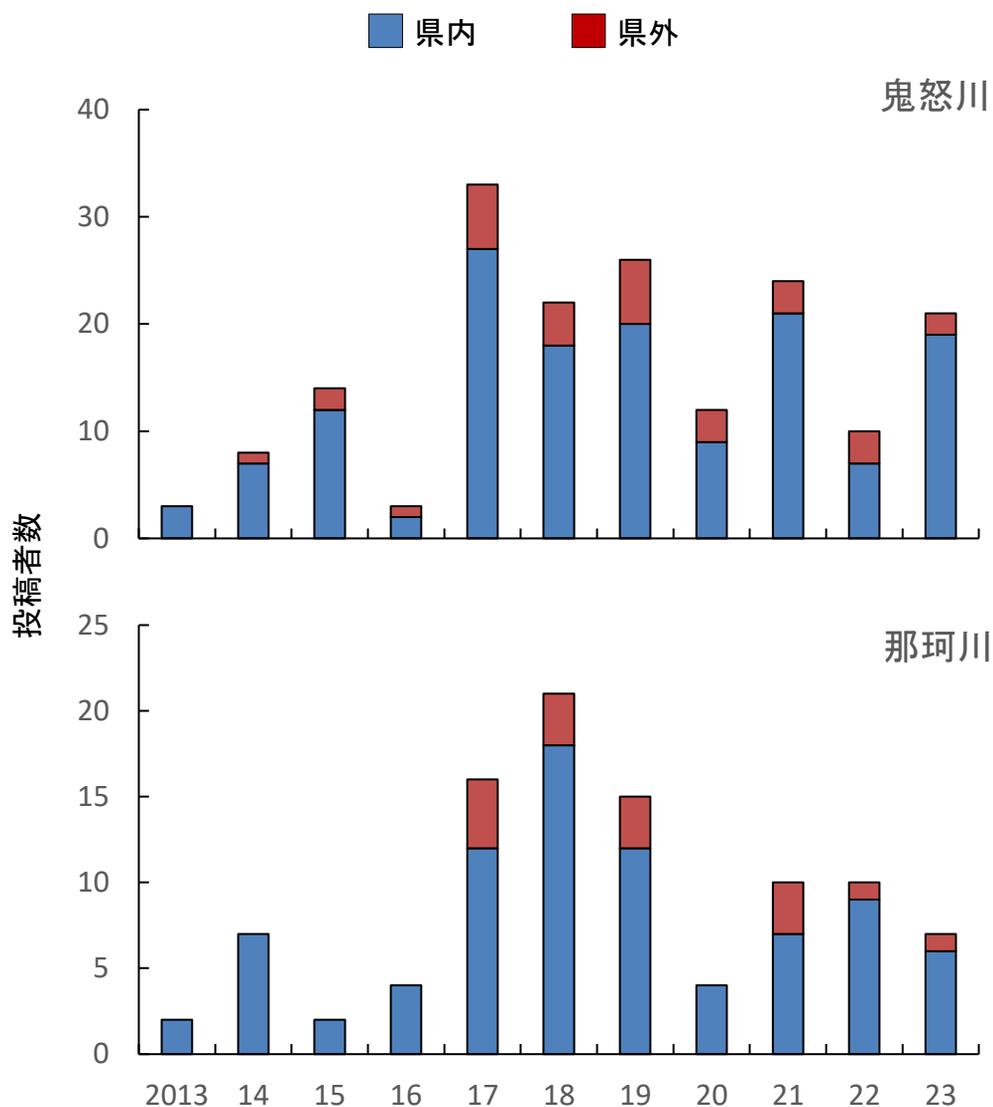
投稿者の釣り方と年代構成



※2013年から2023年までの投稿者の構成を釣り方と年代別に集計した。

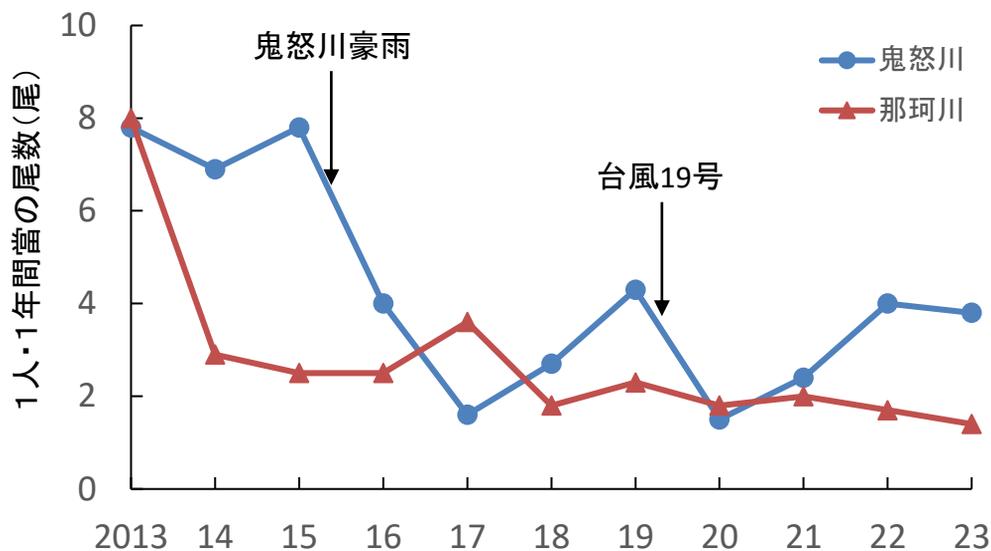
- 鬼怒川の40代以下の割合は、ルアー（76.8%）、フライ（54.5%）、エサ（51.3%）の順に高かった。
- 那珂川ではルアー（79.7%）、エサ（71.4%）、フライ（20.0%）の順で、河川間で年齢構成が違っていた。

投稿者の居住県の構成



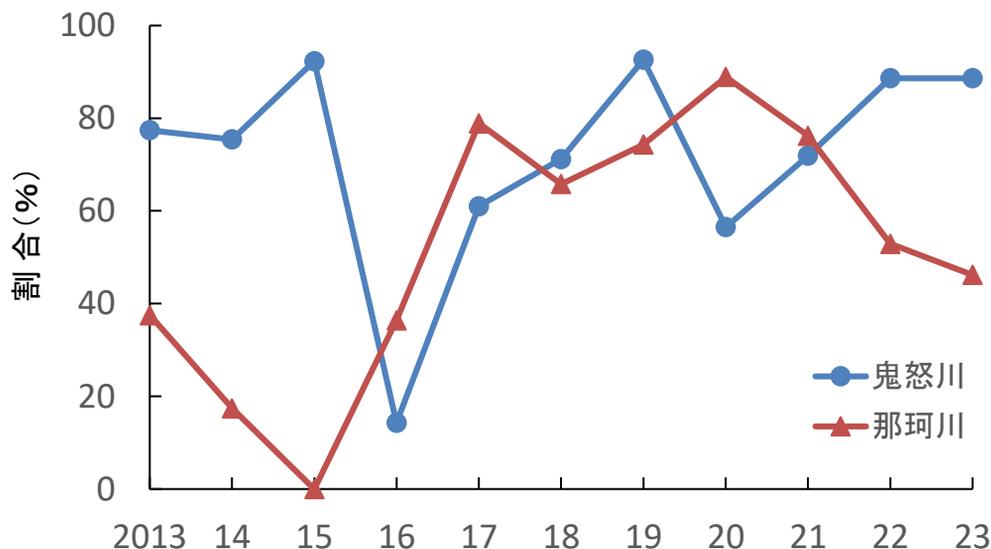
- 両河川とも県内の投稿者の割合が高かった。
- 鬼怒川の県外の投稿者は全て関東地方在住で、茨城県が半分以上を占めていた。
- 那珂川では多くが茨城県在住で、福島県、群馬県からの投稿者も見られた。

投稿者の平均釣果の推移



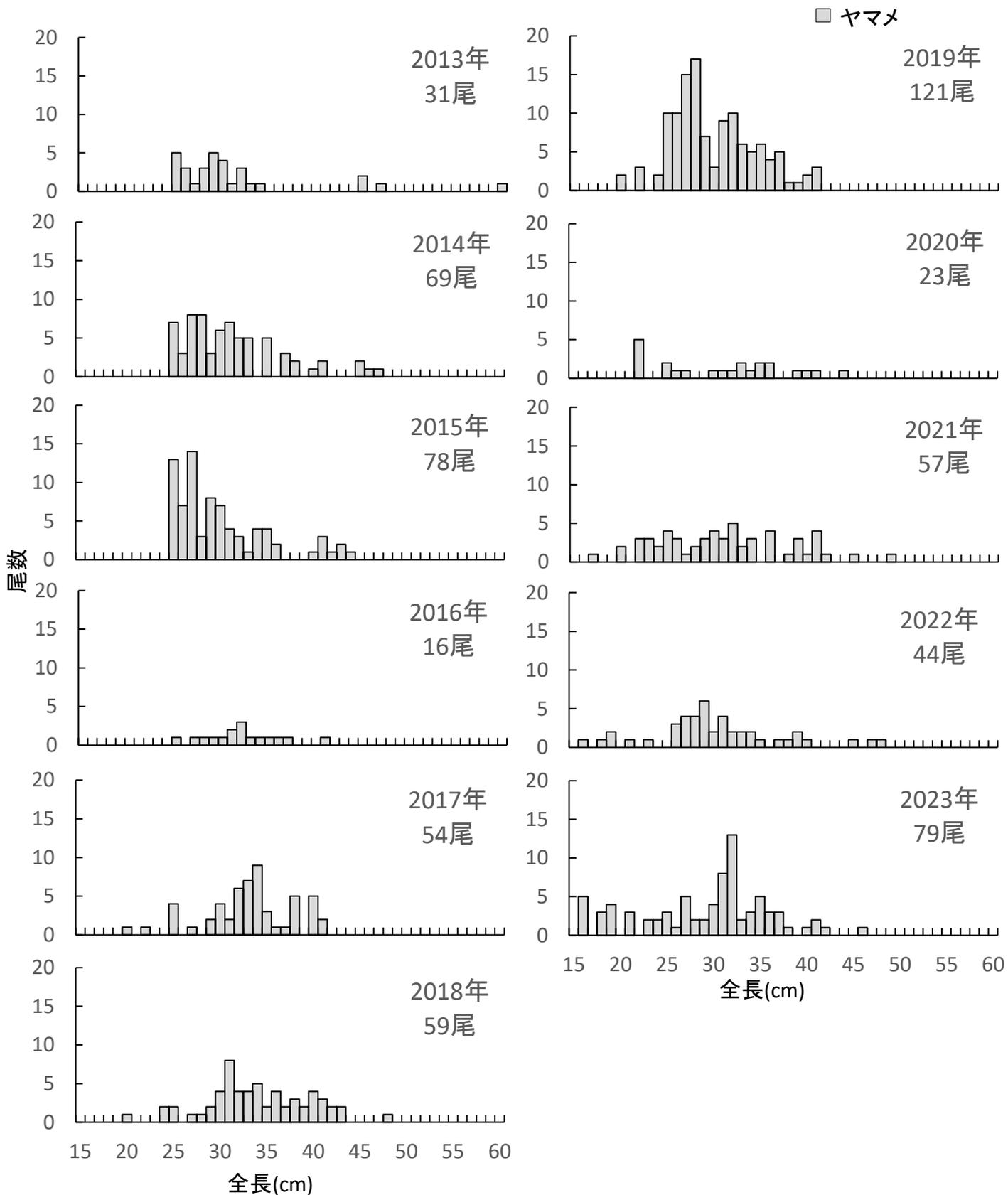
- 鬼怒川では水害の翌年に低下し、その後回復する傾向が見られた。
 - 那珂川では2014年に低下した後、漸減する傾向が見られた。
- 両河川間の変動は同調していなかった。

リリース率の推移



- 鬼怒川では釣果の低い年（2016年、2020年）はリリース率が低下する傾向。
- 2015年の那珂川ではサクラマスとヤマメの判別調査（P1）のサンプルとして提供されたため、リリース率が低くなっている。

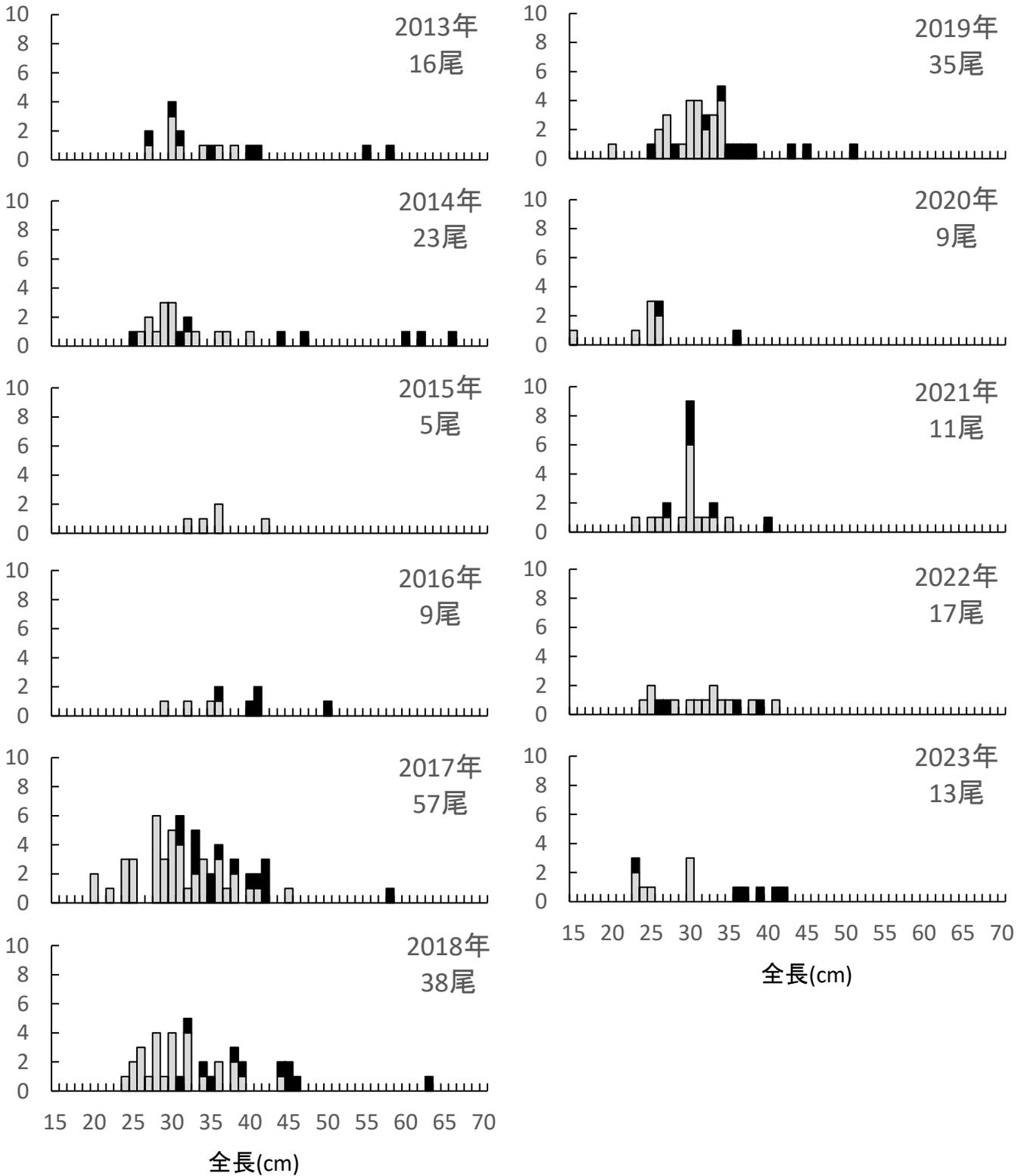
鬼怒川での年ごとの釣獲数とサイズ（全長）



- 年によって報告尾数の差が大きい(那珂川と同様)。
- 40cm程度の魚は毎年釣られているが、50cmを超える魚は非常にまれ。(2013年の1尾のみ)

那珂川での年ごとの釣獲数とサイズ（全長）

■ サクラマス
□ ヤマメ



- 年によって報告尾数の差が大きい。
- サクラマス（降海型）は2015年を除いて毎年釣獲されている。
- 40cm程度の魚は毎年釣られている。一方、50cmを超える魚は比較的少ない。（最大サイズは2014年の65.5cm）

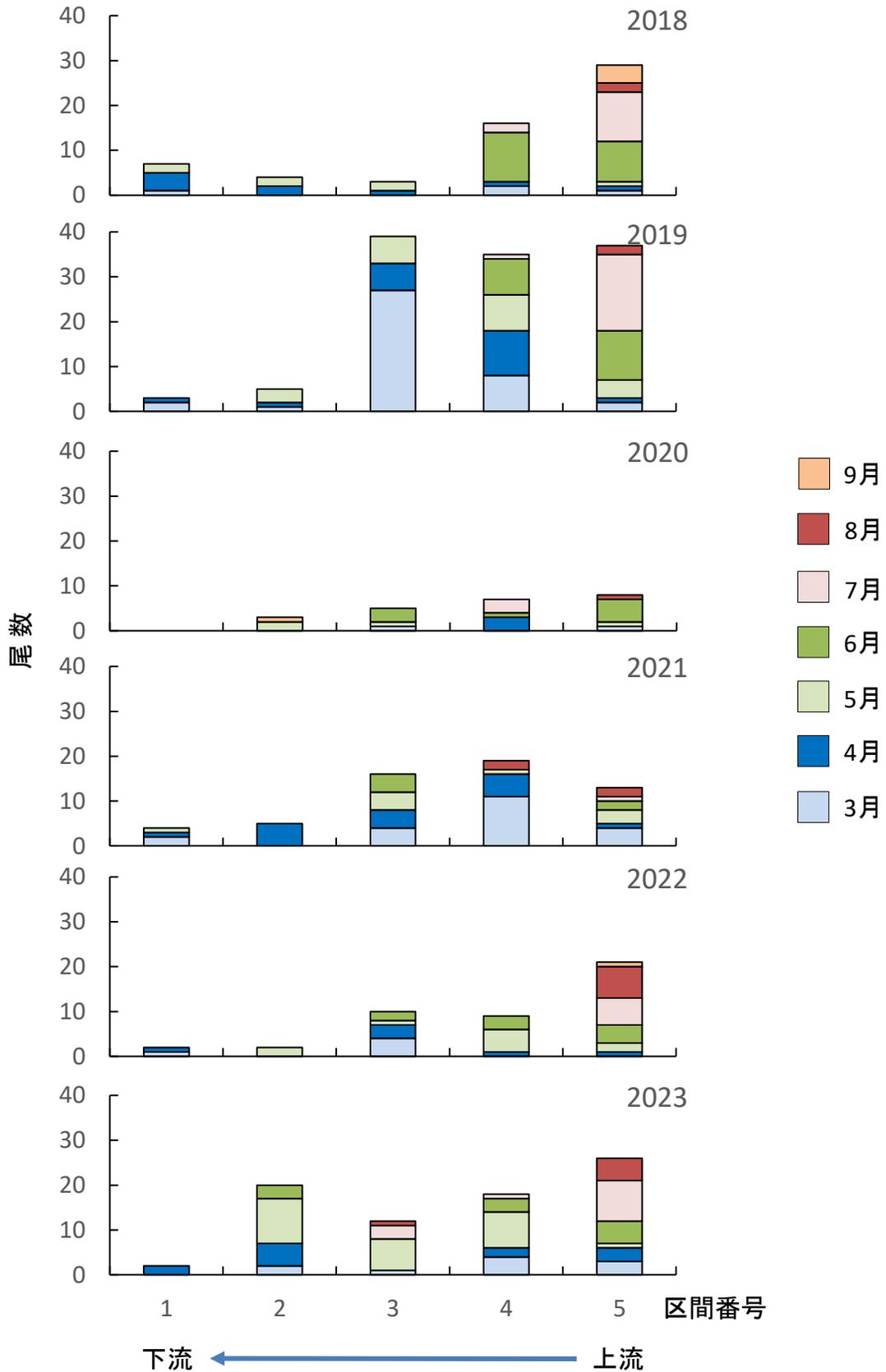
釣獲区間と月ごとの釣獲数の推移

釣獲区間



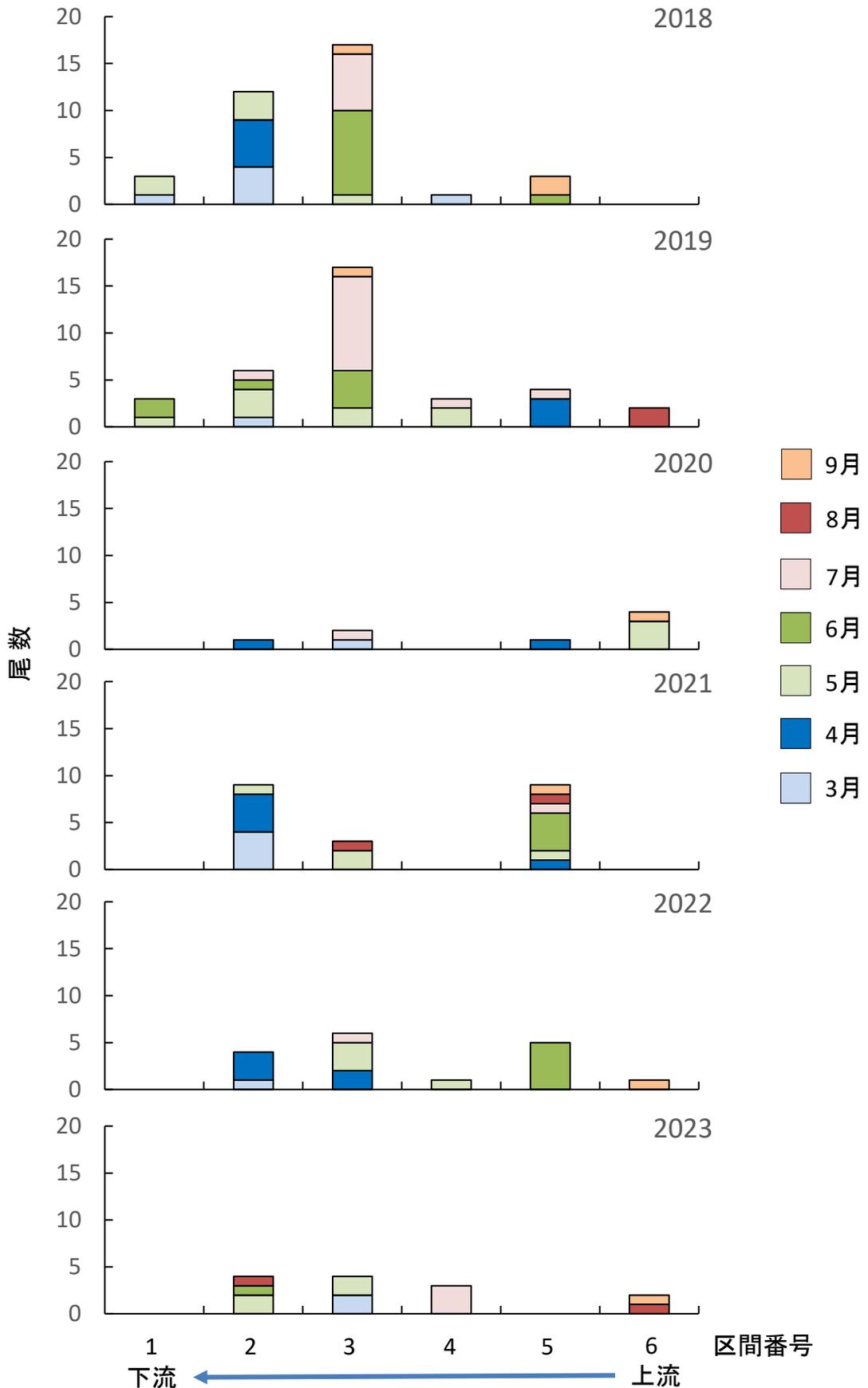
※2018年から釣獲した区間の情報も収集したため、区間ごとの釣獲数を集計した。

区間と月ごとの釣獲数の推移（鬼怒川）



- 下流の区間1～2（新鬼怒橋より下流）では、解禁から5月にかけて釣獲される傾向。
- シーズンを通しての釣獲数は、区間3（新鬼怒橋から上流）より上流で多かった。

区間と月ごとの釣獲数の推移（那珂川）



● 区間1～3（余笹川合流より下流）での釣果数は2020年以降大きく減少した。

まとめ

●投稿者について

- ・投稿者は鬼怒川、那珂川で比較的多かった。
- ・コロナ禍による投稿者数の減少は見られなかった。
- ・2017年から投稿者数（特に50代以上）が増加した。
- ・両河川ともルアーの割合が高く、フライやエサ釣りの投稿者は、鬼怒川で比較的多かった。
- ・釣り方別の年齢構成はルアーで40代以下の割合が高く、鬼怒川と那珂川で構成が異なっていた。
- ・投稿者は県内在住の割合が高かった。

●平均釣果・リリース状況について

- ・鬼怒川の平均釣果は水害の翌年に低下し、その後回復する傾向が見られた。
- ・那珂川の平均釣果は2014年に低下した後、漸減する傾向が見られた。
- ・鬼怒川では釣果の低い年（2015年、2020年）はリリース率が低い傾向が見られた。

●釣獲数とサイズ

- ・報告尾数は那珂川、鬼怒川ともに年ごとの変動が大きかった。
- ・那珂川では、2015年を除く全ての年でサクラマス（降海型）が釣獲されていた。
- ・那珂川では、40cm程度の魚は毎年釣られていた。一方、50cmを超える魚は比較的小なかった。（最大サイズは2014年の65.5cm）
- ・鬼怒川では、40cm程度の魚は毎年釣られているが、50cmを超える魚は非常にまれだった。（2013年の1尾のみ）

●区間と月ごとの釣獲数

- ・鬼怒川の下流の区間は解禁から5月にかけて釣獲される傾向が見られた。
- ・鬼怒川でのシーズンを通しての釣獲数は、上流から中流が多かった。
- ・那珂川では下流（区間1～3）での釣果数は2020年以降大きく減少した。

2013年から本調査を続けてきましたが、2023年度をもってひと区切りとさせていただきます。

みなさまの投稿情報のおかげで、長期間にわたって膨大な情報を集めることができました。

調査にご協力いただきましたみなさまに心から感謝申し上げます。